

(2) 公共広場計画

ア. 公共広場のコンセプト

阪急南千里駅は、乗降客数が1日あたり約24,000人あり、また、ニュータウンの南の玄関口とも位置づけられていることから、地域核としてのポテンシャルにふさわしいコミュニティの場としての公共広場が求められています。

南千里駅周辺の地域特性をさらに伸ばし、ゆとりある空間確保とにぎわいのある広場機能の確保といった観点から、北側に立地する「千里南公園」とは異なる都市型広場として、公共広場のコンセプトをアメニティプラザの創造とします。

公共広場の位置づけとコンセプト

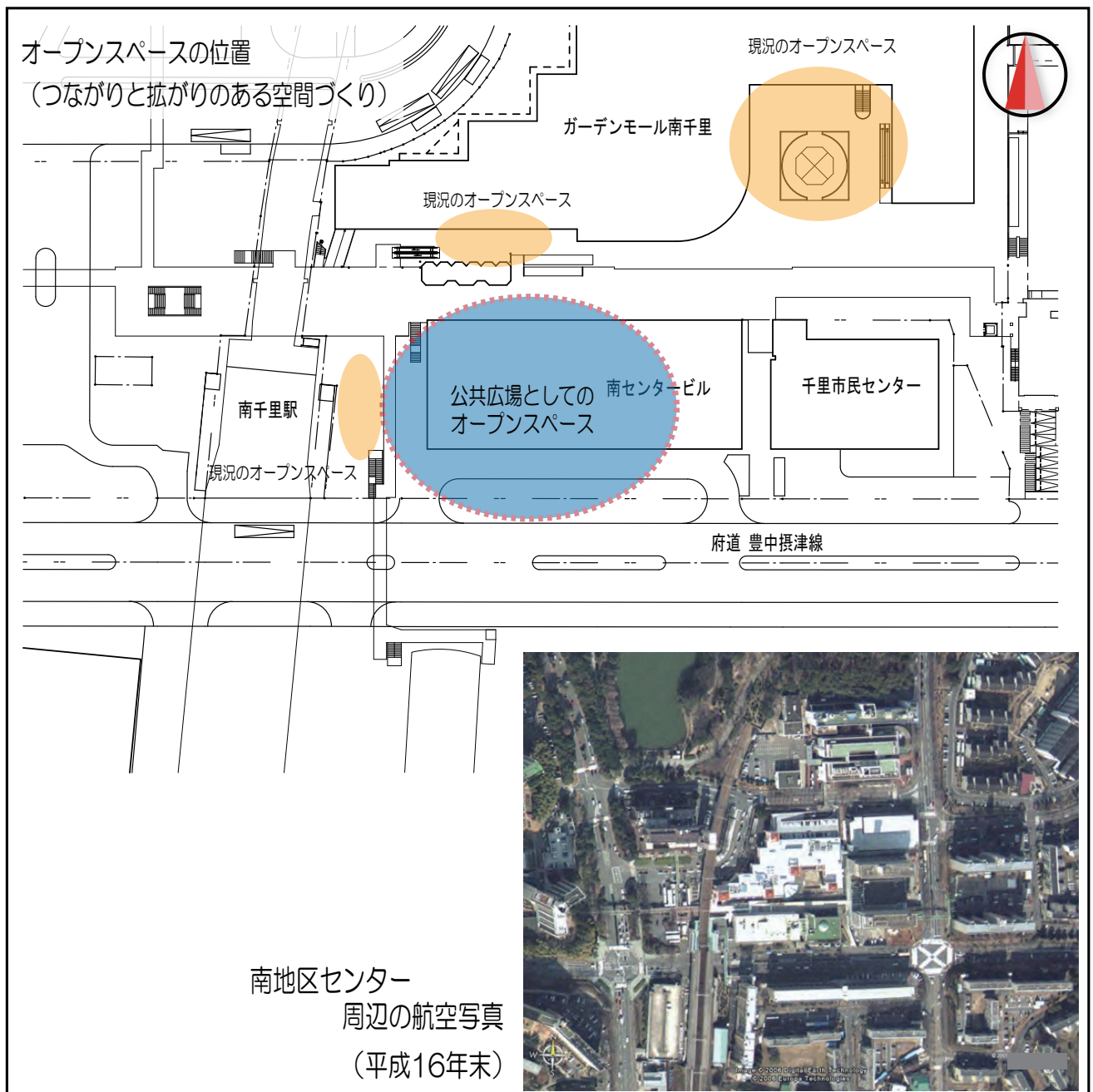
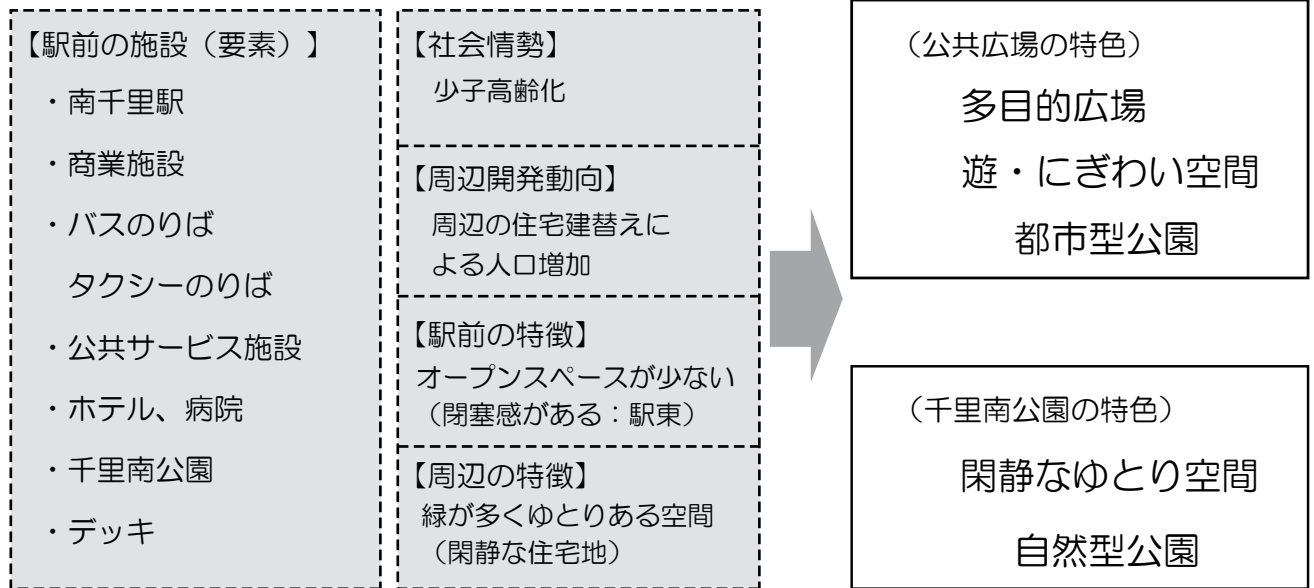
アメニティプラザの創造

日常的な生活環境を補完しつつ、まちなみ景観、地域文化やコミュニティの創出、周辺との連携をめざし、“アメニティあふれる”空間形成を行います。

整備テーマ（公共広場整備にあたっての視点）

①：利用者にとって	南地区センター利用者の快適な回遊・滞留・界隈空間の確保
南地区センターを訪れた人々が快適に移動できる回廊と、とどまることのできるベンチなどを配置し、周辺施設と連携性を持ちながら相互間の関係を強化することができる機能の確保。	
②：景観から見て	周辺の建物のデザイン性、素材などと調和させ、周辺景観に馴染み溶け込むような景観性に配慮
長期的にみて、公共広場から周辺施設に対してデザインや素材、色彩など波及効果を与えることのできる機能を有し、まちなみに調和していくことのできる発信拠点。	
③：南千里の顔づくり	ニュータウンの発祥の地として、ふさわしいランドマークとなるよう存在し、南千里の玄関に適した“顔づくり”
ニュータウンの歴史性を尊重し、ふさわしい広場装置を備えた都市広場として整備することで、訪れた人々が語らい交流する場を持つことにより、“南千里の顔”としての空間構成を確保。	
④：広場の活用	積極的にイベントや祭りなど行える場を提供し、南地区センター利用者の交流を促進
これまで歩んできた南千里の地域活動や地域交流行事を通じ、新たな情報発信や交流拠点として次世代に継承することのできる、地域活性化を助長する役割。	

■南千里の要素



イ. 公共広場イメージ

- ①. 形態
敷地の中央を中心に、イベントや盆踊り等が行えるオープン空間を設ける。
- ②. 景観
円形のオープン空間の周囲に植栽や花壇、モニュメント等を配置する。
- ③. 滞留性
ベンチを設ける。

